

街の樹木

都市樹木研究室

公園・緑地の自然再生シリーズ

第5回



生きものの賑わいを保つ管理

人の利用頻度に応じた緑地管理

人の利用頻度に応じて人と生き物の棲み分けを工夫することで、トラブルを減らしつつ、緑地を守ることができます。私たちが少し視点を変えることで、自然の力を最大限に活用し、持続可能な緑地管理を目指していきましょう。

01

自然と調和した緑地管理へ

薬剤に頼りすぎると、生き物たちのバランスが崩れ、病害虫がさらに増えることがあります。都市公園や家庭の庭でも、生き物たちが活躍できる環境を整えることで、自然と調和した管理が可能になります。人と生き物の棲み分けを工夫することで、トラブルを減らしつつ、緑地を守ることができます。私たちが少し視点を変えることで、自然の力を最大限に活用し、持続可能な緑地管理を目指していきましょう。



粗放管理エリア

緩衝帯

人の動線

緩衝帯

粗放管理エリア

管理の配慮割合イメージ



ヒト 5 : 自然 5



人の利用を優先する空間と、生き物の生活を尊重する空間をつなぐ地帯

管理の配慮割合イメージ



ヒト 8 : 自然 2



人の利用の安全安心を最優先するエリア

管理の配慮割合イメージ



ヒト 2 : 自然 8



水辺や草地、林地などの場所に応じて、そこに生息する生きものを見守るエリア

人と生き物の緩衝帯

草花が中心になって地表をカバーし、ところどころに樹木があって木陰を作ります。季節や朝晩の時間帯によって、明るさや温度や湿度が様々に変わる多層空間が出来上がり、植物の種数も利用する動物の種数もぐっと多くなります。

年2～3回の草刈り

明るい林縁を好む希少種は多いもの。機械刈りを始める前に、地面に目を近づけ下見をしましょう。「これは！」という種はあらかじめ刈残し用に青い目印棒をつけると、作業時に気が付きやすくなります。



季節毎の点検と処置

園路へのリスク回避は緑地管理の肝。人の動線に近い茂みの間にできるハチの巣や園路に出るモグラ塚、通路方向に傾いて伸びる枝などは状況を把握し、事故を防ぎつつ生き物への影響をできるだけ小さくできる時期と方法で、利用者の心配を解消する処置につなげます。



News Letter 「公園・緑地の植栽点検シリーズ」を check!

発生材の堆積と利用

土は健やかな生態系の基盤です。刈り草や剪定枝は、その場所で生産された光合成エネルギーの塊。基本はその場から持ち出さず、刈り倒しや堆積することで、様々な生物の食物となり徐々に分解され、土を豊かにし、巡り巡って数年後の草木の栄養になります。



人の動線（広場や園路）

トカゲや小さなバッタが横切ることを許容する心の余裕があれば、人間のための空間も多様な生物の生息空間として成り立ちます。

毎日の巡回点検と清掃

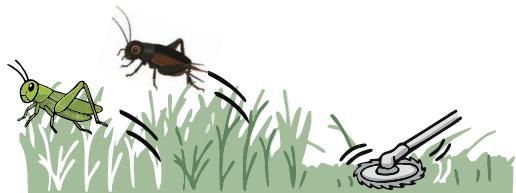
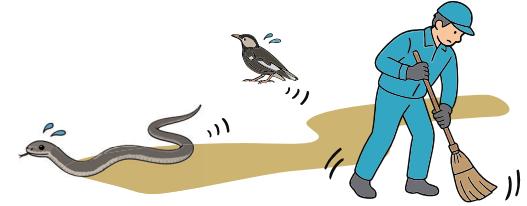
頻繁に作業に入ることで「ヒトが利用する区域・時間帯」のアピール！人と生物との住み分け＆不幸な出会い回避に役立ちます。

年5～6回の機械刈り

繰り返しの草刈りで日当たり良好！定期的に土が露出する環境となり、低い草丈の草花が優占繁茂する空間にもなります。

外来種の侵入予防

外来種の種は来園者にくついて持ち込まれ、生息地を拡大しがち。ここでは作業後の片づけという場外搬出で定着を抑えます。

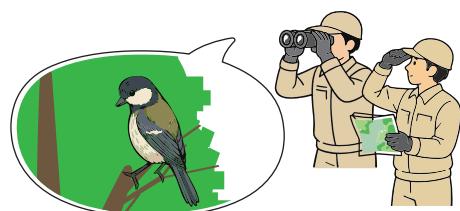


粗放管理エリア（自然の営みを優先するエリア）

日常的な人の利用を想定しないエリアは生き物に譲るのが得策。管理用通路など防犯や維持管理のための最小限の手入れでまずは様子を見ます。

年1回の点検と処置

生き物の動向を把握するため、開花や巣立ちの活動が盛んな5・6月にそっと実施、がお勧めです。



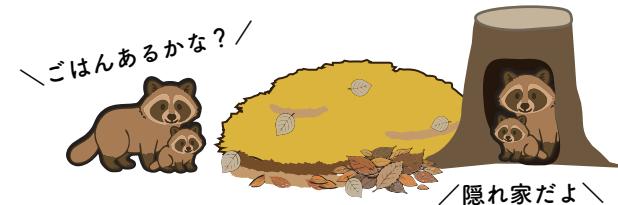
年1回の草刈り

草刈り作業は管理用通路のみにとどめて、繁殖期と冬季など、生き物が素早く逃げられない時期は見合わせます。その土地の生き物カレンダーに合わせて実施計画を立てるのがベストです。



発生材の堆積

基本はその場での刈り倒しと積み残し。エネルギーの循環を心がけ、落ち葉や枯木を利用する生き物の生活を応援しましょう。



公園・緑地の植栽点検・講習のご依頼は株式会社エコルまで！



発行元 株式会社エコル
東京都港区南麻布3-20-1 Daiwa麻布テラス4F
03-5791-2901 03-5791-2902

過去の記事も確認できます！

都市樹木研究室の
HPのQRコードは
こちらから

